アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所訪問記

小　林　　岳

はじめに

私は、2017年２月21日より３月１日までドイツ連邦共和国ダッハウ市ならびにポーランド共和国クラクフ市、オシフィエンチム市に研究出張した。その目的は杉原千畝の功績に関するドイツ=ナチ政権のユダヤ人迫害政策と杉原千畝の功績に関する現地調査および資料収集である。

小稿は、その調査行のうちオシフィエンチム市に滞在して調査したアウシュヴィッツおよびビルケナウ強制収容所の見聞記であるとともに高等学院の世界史資料（とくに大学準備講座「現代社会の諸問題」講義用教材）としてまとめたものである。なお、ここに記す博物館および展示概要は現地の収集資料ならびにポーランド国立アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館ホームページの記事に依拠することをお断りしておく。

クラクフとオシフィエンチム

①中央ヨーロッパとオシフィエンチム (1)

クラクフ（Kraków）はポーランド南部に位置し、西方の神聖ローマ帝国や東方のモスクワ大公国を圧する広大な領土を誇り、ポーランドの最盛期を現出したリトアニア=ポーランド王国ヤゲウォ（ヤゲロー）朝（1386 ～ 1572）の首都として栄えた。その後ヤゲウォ（ヤゲロー）朝の断絶によって選挙王制に移行すると首都はワルシャワに遷り、ついでオーストリア、プロイセン、ロシアの３次にわたるポーランド分割（1772、1793、1795）を経てクラクフはオーストリア帝国領ガリツィアに組み込まれた。

第二次世界大戦中のクラクフにはドイツ=ナチ政権のポーランド総督府が置かれ、ポーランド人知識人の抹殺とユダヤ人のゲットー隔離および絶滅収容所への移送などが実行された。

なお、第264代ローマ教皇ヨハネパウロ２世（1920 ～位1978 ～ 2005）はクラクフの西南50キロほどのヴァドヴィツェ（Wadowice）の出身で、クラクフ教区の大司教（任1964）であったことはよく知られている。この教皇がポーランド人の精神的支柱となって1980年代の民主化運動に影響を与え、それがソ連の衛星国であった東欧諸国で共産主義体制が連続的に崩壊し、ソ連自体も消滅する東欧革命につながることも、またよく知られる事柄である。

オシフィエンチム（Oświęcim）は、クラクフの西南70キロほどに位置する。

1939年10月、ポーランド西半を占領したドイツは、大量に発生したポーランド人政治犯を収容する強制収容所の設置を検討し、その地を旧ポーランド陸軍の兵舎が建つオシフィエンチム（ドイツ名アウシュヴィッツ　Auschwitz）の原野に求めた。その理由はヨーロッパの隅々にまで延びる鉄道の合流点（ジャンクション）であるオシフィエンチム駅および市街からともに２キロほど離れた場所であるため秘密保持と施設拡張が可能であり、またすでに通信網も整備されていたからである。

ヨーロッパの鉄道網と強制収容所(2)

アウシュヴィッツ強制収容所の概要

アウシュヴィッツ強制収容所（Das Konzentrationslager Auschwitz KL Auschwitz）は、第一強制収容所（基幹収容所）、第二強制収容所（ビルケナウ）、

第三強制収容所（モノヴィッツ）によって構成される。その概要を示すと以下のごとくなる。

アウシュヴィッツ収容所略史(3)

1939年

９月１日　ドイツのポーランド侵攻により第二次世界大戦勃発

９月17日　ソ連のポーランド侵攻

10月６日　ドイツとソ連のポーランド分割占領　ポーランド系住民の大量逮捕によって強制収容所建設の計画起案

1940年

１月25日　オシフィエンチム市に強制収容所の建設を決定

５月20日　アウシュヴィッツ第一強制収容所開設
初代所長ルドルフ・フェルディナント・ヘス（1900～47）

６月14日　ポーランド人政治犯の初移送により、強制収容所の活動開始

11月　ポーランド人40名の銃殺（最初の銃殺刑）

1941年

３月　SS最高司令官ハインリッヒ=ヒムラー初視察、収容所の拡大を命令

９月３日　チクロンＢを使用した大量虐殺開始、ソ連軍捕虜（約600名）とポーランド人（約250名）を殺害

秋　第一強制収容所にガス室と焼却室を備えた第１クレマトリウム設置

10月　ブジェジンカ（Brzezinka　ドイツ語名Birkenau）にアウシュヴィッツ第二強制収容所（ビルケナウ強制収容所　Das Konzentrationslager Auschwitz-Birkenau）建設開始

11月　「死の壁」の前で初の銃殺刑執行、151人のポーランド人殺害

1942年

１月　第一クレマトリウムでユダヤ人の大量虐殺開始

３月　ビルケナウ収容所の活動開始

３～６月　ビルケナウ収容所の仮設ガス室の使用開始

10月　モノビツェ（Monowice ドイツ語名Monowitz）にアウシュヴィッツ第三収容所（モノビツェ収容所 Das Konzentrationslager Auschwitz-Monowitz）の建設

1943年

２月　ビルケナウ収容所にロマ（ジプシー）用の「家族収容所」設置

３～６月　ビルケナウ収容所の第２・３・４・５クレマトリウムの稼働開始

９月　チェコのテレジエンシュタット収容所から移送されたユダヤ人用の「家族収容所」設置

1944年

５月　ビルケナウ収容所の第１・第２クレマトリウムに直結する鉄道引込線と降車場（ランペ）完成

５～６月　ハンガリーから43万8000人のユダヤ人を移送

３～７月　テレジエンシュタットより移送したユダヤ人家族約１万1000人を虐殺「家族収容所」廃止

８月　ロマ（ジプシー）の家族3000人を虐殺「家族収容所」廃止

1945年

１月17日　ソ連軍の進行により囚人約６万人を移送する「死の行進」開始

１月21～26日　ビルケナウ収容所のクレマトリウム破壊　SS部隊撤退

１月27日　ソ連軍による収容所解放　7000人の囚人を救出

1947年

７月　ポーランド国会は元収容所の敷地および物件の永久保護と国立オシフィエンチム・ブジェジンカ博物館設立法を決議。

1979年

世界文化遺産に登録

1999年

国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館に名義変更。

アウシュヴィッツ収容所へ連行されたユダヤ人の国籍別推定人数（戦前の国境内）(4)

ポーランド人	30万人
フランス	６万9000人
オランダ	６万人
ギリシア	５万5000人
チェコ・テレジエンシュタット	４万6000人
スロヴァキア	２万7000人（戦中の国境内）
ベルギー	２万5000人
ドイツとオーストリア	２万3000人
ユーゴスラヴィア	１万人
イタリア	7500人
ラトヴィア	1000人
ノルウェー	690人
その他の収容所・場所不明	３万4000人
合計	約110万人

アウシュビッツの推定犠牲者数(5)

民族	連行された人数	登録された人数	殺害された人数
ユダヤ人	110万人	20万人	100万人
ポーランド人	14～15万人	14万人	７万～7万5000人
ロマ（ジプシー）	２万3000人	２万3000人	２万1000人
ソ連軍捕虜	１万5000人	１万2000人	１万4000人
その他	１万5000人	２万5000人	１万～1万5000人
合計	約130万人	約40万人	約110万人

アウシュヴィッツの囚人カテゴリー(6)

ユダヤ人	1942年以降、最多の収容者数となる。登録されて囚人番号をつけられたのは約20万人。
政治犯	約16万人、そのうち政治活動、レジスタンス運動などで逮捕されたポーランド人が最多。
反社会的分子	２万1000人のロマ（ジプシー）をふくむ。
ソ連軍捕虜	１万5000人のうち１万2000人が登録された。
教育囚人	労働規約に違反して収容された者、１万1000人。
警察に逮捕されたポーランド人	他地域のゲシュタポ刑務所が満員のため移送された者が多い。収容所内での臨時裁判を経てにより数千人が銃殺された。

刑事犯	ドイツ人を主体とする数百人で、収容所内の規律の維持などSS隊員の補助的役割を果たした。
エホバの証人	宗教的理由によって連行されたドイツ人を主体とする収容者。少なくとも138人が登録された。
ホモセクシャル	主にドイツ人で、数十人が登録された。

アウシュヴィッツ第一強制収容所

ここは50haほどの敷地に収容所司令官室、ナチス親衛隊（Schutzstaffel, SS）管理棟、SS病院、国家秘密警察（ゲシュタポ，Gestapo）事務所、懲罰拘禁室（地下牢）などが配置され、傘下の全収容所を管理・統括する基幹収容所として機能した。そこには厨房棟と倉庫を除いて地下室と屋根裏部屋をもつ二階建ての建物が28棟並び、常時１万3000～6000人程度（最大時は２万人ほど）が収容され、さまざまな強制労働に従事した。

現在、ポーランド国立アウシュヴィッツ博物館としていくつかの建物でテーマ別の常設展示がなされている。以下、調査した箇所および展示物などについて記すことにしたい。

（1）４号館・５号館展示室（絶滅計画に関する展示）

ここは強制連行、選別、財産没収、クレマトリウムでの処刑・遺体焼却に関する写真や資料および遺留品などがテーマ別に展示されている。

①４号棟（手前）および５号棟（以下、写真は⑬⑭⑮を除いて小林撮影）

左側面の下部に地下室の窓、また正面１・２階屋および屋根裏部屋の窓が確認できる。

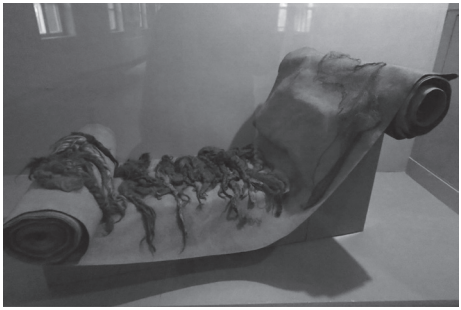
②チクロンＢの容器

直径10センチ、高さ11センチほどの円筒形缶。

③残された靴の山

男物の靴のなかに女性用の赤いハイヒールやサンダルなどが見える。

④切り取られた三つ編みの頭髪と加工された毛織物（生地）



収容者から刈り取った頭髪は袋詰めして工場に売却、毛織物に加工されて販売された。

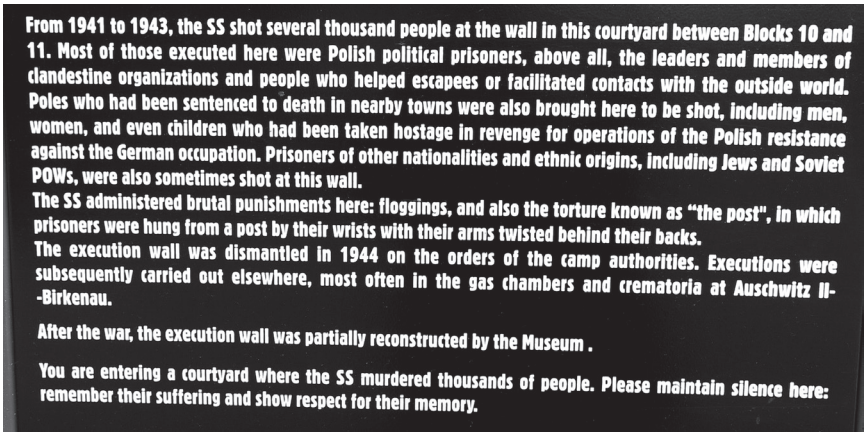
（2）10号館・11号館に挟まれた処刑場の「死の壁」

10号館は生体実験に関する資料室であるが、現在は非公開。11号館はゲシュタポの活動拠点で、その事務所、臨時裁判所、懲罰拘禁室（地下牢）などがほぼ当時のまま残されている。なお初代所長ルドルフ=ヘスによると、この地下牢でチクロンＢによるロシア人捕虜の殺害がなされ、これを契機にガス室における大量殺害の方法が確定したとされる(7)。

⑤「死の壁」

花や蝋燭が供えられたレンガ壁の前方中央の石壁の前で数千人にのぼるポーランド政治犯、ソ連軍捕虜、ユダヤ人などが銃殺された。

⑥「死の壁」の説明



From 1941 to 1943, the SS shot several thousand people at the wall in this courtyard between Blocks 10 and 11. Most of those executed here were Polish political prisoners, above all, the leaders and members of clandestine organizations and people who helped escapees or facilitated contacts with the outside world. Poles who had been sentenced to death in nearby towns were also brought here to be shot, including men, women, and even children who had been taken hostage in revenge for operations of the Polish resistance against the German occupation. Prisoners of other nationalities and ethnic origins, including Jews and Soviet POWs, were also sometimes shot at this wall.
The SS administered brutal punishments here: floggings, and also the torture known as "the post", in which prisoners were hung from a post by their wrists with their arms twisted behind their backs.
The execution wall was dismantled in 1944 on the orders of the camp authorities. Executions were subsequently carried out elsewhere, most often in the gas chambers and crematoria at Auschwitz II--Birkenau.

After the war, the execution wall was partially reconstructed by the Museum .

You are entering a courtyard where the SS murdered thousands of people. Please maintain silence here: remember their suffering and show respect for their memory.

（3）第１クレマトリウム

クレマトリウムは、脱衣室、ガス室、焼却炉を備えた複合施設で、第一収容

所（アウシュヴィッツ）に１基、第二収容所（ビルケナウ）に４基（第２～第５）設置された(8)。第１クレマトリウムは、350平方メートルのコンクリート製兵舎を転用したもので、入口以外の三面は土で覆われている。

⑦第１クレマトリウムの入口と煙突

レンガ製の煙突は大戦後に復元されたもの。

⑧ガス室

追悼の蝋燭を供えることを禁ずるプレートが立つ。

⑨復元された遺体焼却炉

燃料は、近郊の炭鉱から採掘した石炭またはそれを加工したコークスが用いられた。

アウシュヴィッツ第二強制収容所（ビルケナウ）

アウシュヴィッツ第一強制収容所から３キロほど離れたブジェジンカ村（ドイツ名ビルケナウ）に建設されたビルケナウ収容所は1944年３月から45年１月末まで操業した。140haの敷地に300棟近くの管理棟、収容棟、倉庫棟およびクレマトリウム、ランペ（降車場）などが建設され、1944年には収容人数９万を数えた。ただし、ここは強制労働を目的とする収容所ではなく、絶滅収容所としても機能したことに注意しなければならない。以下、調査した箇所について記すことにしたい。

⑩ビルケナウ収容所の監視塔

収容所のメインゲートで「死の門」とよばれている。オシフィエンチム駅附近の幹線から２キロメートルほどつづく引込線と収容所内のランペ（降車場）は1944年５月に完成した。

⑪ランペ（降車場）１

ランペ（降車場）から「死の門」を遠望する。収容所内の線路はランペをはさんで三本に別れ、真っ直ぐに700メートルほどつづく。

⑫ランペ（降車場）２

ランペ（降車場）から引込線の終点方向を望む。そこは収容所の最奥部で、1967年に建立された国際慰霊碑と広場をはさみ、左に第２クレマトリウム、右に第３クレマトリウムの残骸が残る。

ここで以下、1944年５～６月、ハンガリーからビルケナウ収容所に到着したユダヤ人の状況をSS隊員が撮影した写真によって確認することにしたい(9)。

⑬ 降車後の状況１

右に停車する貨物車から降り、荷物を担いで整列場所に向かう人々。線路を挟み左に第２クレマトリウム、右に第３クレマトリウムの煙突が見える。

⑭ 降車後の状況２

左半に見える縦縞模様の囚人服を着た男たちは被収容者（囚人）から選抜された労務員である。

⑮ 整列と選別

写真の左側に男性、右に女性と子供が整列し、軍服姿のSS医師から選別を受けている。ここで収容所の労働に適すると判断された人は収容者受入棟に出頭して頭髪を刈られ、消毒、写真撮影および囚人番号を身体に刺青されたのち使役された。また適さぬと判断された老人・病人・妊婦・子供などはシャワーを浴びるという名目で、ガス室に直行させられた。写真左上にはクレマトリウム２・３の方向に歩く隊列が見える。また写真右上には一時預かりという名目で没収された荷物の山とそれを運ぶトラックが確認できる。

⑯第２クレマトリウム跡につづく道路の案内板

左からポーランド語、英語、ヘブライ語で記される。その英語版を引用すると以下のごとくなる。

A group of Jewish women and children deported from Hungary, selected by the SS for immediate death in the gas chambers. In the background are the railway tracks and Crematirium Ⅲ. Photo taken by the SS, 1944

⑰第２クレマトリウムの模型（アウシュビッツ第４号館第４展示室）

左の入口から地下の脱衣場に下り、ガス室（210平方メートル）に進む。中央の三角屋根と煙突をもつ施設は１階に５基の焼却炉を備えた焼却場で、エレベーターで地下と接続する。

ここで死体処理など特殊な任務につく囚人はゾンダーコマンド（Sonderkommando in den Konzentrationslager）とよばれ、常時400人ほどが従事したとされる。

⑱第２クレマトリウムの残骸

左は地下の脱衣場、正面は平屋建ての焼却場、右は地下のガス室の残骸である。

⑲国際慰霊碑

ヨーロッパ各地からアウシュヴィッツ・ビルケナウに連行され、虐殺された人々を悼む言葉が、さまざまな言語で記されている。石碑は20基ほどで、その英語版を引用すると右のようになる

FOR EVER LET THIS PLACE BE
A CRY OF DESPAIR
AND A WARNING TO HUMANITY
WHERE THE NAZIS MURDERED
ABOUT ONE AND A HALF
MILLION
MEN, WOMEN, AND CHILDREN,
MAINLY JEWS
FROM VARIOUS COUNTRIES
OF EUROPE.
AUSCHWITZ-BIRKENAU
1940-1945

⑳祈りをささげるイスラエルの高校生

イスラエルから来た高校生たちが祈りをささげていた。国旗をマントのようにまとう姿もある。

左端に見える第２クレマトリウム跡地前の案内板の下では跪く姿も見られた。

おわりに

今次の調査行は厳寒期となり、訪問日の数週間前にポーランドでは氷点下20

度を記録したというニュースが流れた。幸いにしてアウシュヴィッツ・ビルケナウ調査時は寒気も緩み、雪まじりの風は吹いていたが、無事に目的を達成することができた。

小稿は紙幅の都合によりビルケナウの第４、第５クレマトリウムおよび人骨を投棄した「死の池」およびソ連軍戦争捕虜、テレジエンシュタットから移送されたユダヤ人家族やロマ（ジプシー）家族棟、乳幼児収容棟などについて記すことができなかったが、教室では写真資料を添えて言及しなければならないと考えている。また引用資料としてハンガリーから強制連行されたユダヤ人の写真⑬⑭⑮⑯を用いたが、そこに写っている子供をふくむ大半の人々は写真が撮られた数時間後にはガス室で殺害され、遺灰となった事実を重く受け止め(10)、授業を行わなければならないと思う。教室においてどれだけのことが伝えられ、生徒諸君が真摯に考える契機となすことができるか。この調査行の目的がそこにあることは言うまでもないことである。

注

（1）中谷剛新訂増補版『アウシュヴィッツ博物館案内』凱風社、2012年）51頁の地図を一部改編した。

（2）同上118頁。

（3）収容所略史はポーランド国立アウシュヴィッツ－ビルケナウ博物館HP(http://auschwitz.orghttp://auschwitz.org）の日本語版を参照した。なお小稿は同HPの注意事項（博物館が所有するこれらの資料は、「情報源：www.auschwitz.org」と明記すれば、非営理目的かつ教育用として無料で利用することが許可されます。但しその目的は、アウシュヴィッツ強制・絶滅収容所で犠牲となった人々の名誉を毀損しない活動・企画に限定されます）とする一文を遵守するものである。

（4）連行されたユダヤ人の国籍別推定人数（戦前の国境内）については注（3）に同じ。

（5）推定犠牲者数については注（3）に同じ。

（6）囚人のカテゴリーについては注（3）に同じ。

（7）ルドルフ=ヘス著・片岡啓治訳『アウシュヴィッツ収容所』（講談社学術文庫、1999年）292～296頁「ロシア兵でテスト・チクロンＢ」。

（8）ビルケナウ収容所にはほかに農家を改造した「白い家」・「赤い家」とよばれるガス施設があり、これを加えると全体で７施設が存在した。

（9）写真⑬⑭⑮⑯はパヴェル=サヴィツキ、中谷剛訳『アウシュビッツ－ビルケナウ強制収容所写真集―あなたが今立っている場所―』（国立アウシュヴィッツ－ビルケナウ博物館、2016）に依拠する。この３枚および写真⑯のオリジナルは「アウシュヴィッツのアルバム」または「リリ=ヤコブのアルバム」として知られるもので、1944年６月、SSの撮影者がビルケナウのランペ（降車場）に到着したハンガリー系ユダヤ人の情況を写した200枚ほどの写真の一部である。

(10) クロード=ランズマン・高橋武智訳『SHOAH』（作品社、1995）275 ～ 287頁。

附記　小稿は2016年度特別研究期間助成費および早稲田大学特定課題研究助成費（2017K-357・2017B-343）の研究成果の一部である。